

## 11. 三河湾における攪乱

### 11.1 主要な風水害、地震及び津波

伊勢湾及び三河湾周辺においては、古くから風水害や地震、津波などの災害の情報が残っており、表 11.1.1 に示すように、様々な災害が発生している。

表 11.1.1(1) 伊勢湾・三河湾周辺における主要な風水害、地震及び津波

年次	月日	災害	内容
680年(天武9)	8月	風水害	伊勢で大風雨。倒木・家屋破損の被害。
684年(天武13)		地震と津波	全国的な大地震が起き、畿内近国で人・家畜の被害が10万に及ぶ。伊勢では3箇所が陥没した。
715年(靈龜1)	5月26日	地震と津波	震源地は三河・遠江の国境付近、三河では正倉47棟倒壊、民家が陥没。
775年(宝龜6)	8月22日	風水害	尾張・伊勢・美濃に暴風雨、木曾川氾濫。川沿いの地域で死者約300人、牛馬約1,000頭流死。
1040年(長久1)	7月26日	風水害	強い西風と大雨で伊勢神宮外宮宮正殿などが倒壊。宮川氾濫で市中は海と化し一時交通途絶。
1096年(永長1)	11月24日	地震と津波	畿内・東海道・南海道で大地震。伊勢安濃津をはじめ、東海道沿岸地方で津波被害。
1275年(建治1)		地震と津波	震源地は紀伊・尾張・伊勢で死者数百人。
1360年(正平15)	10月4・5日	地震と津波	二度にわたる強震。6日には尾鷲から攝津兵庫にかけて津波襲来。人畜の被害甚大。
1400年(応永7)	10月24日	地震と津波	伊勢から遠江にかけて地震、三河の被害が大きかった。
1498年(明応7)	8月25日	地震と津波	志摩から伊豆にかけての東海道で大地震。伊勢・志摩では津波による死者1万人余。当時の「日本三津」の安濃津・大湊が壊滅する。明応年間には地震が多発、明応7年6月の地震で三河豊川の川筋が変わる。
1510年(永正7)	8月27日	地震と津波	尾張・三河・遠江で山崩れ・津波。津波が遠江荒井崎を破り、浜名湖が外海とつながる。
1540年(天文9)	8月11日	風水害	近畿から東北で暴風雨。伊勢では雲出川ほか多くの河川が氾濫、三河では豊川河口の前芝などで高潮の被害。
1570年(元龜1)	8月21日	風水害	暴風雨により尾張知多郡・三河・遠江で家屋・農作物に被害。
1585年(天正13)	11月29日	地震と津波	震源地は越中白山付近、近畿・北陸・東海地方に被害。桑名・長島・岡崎などの城が損壊。伊勢湾岸では津波で流死者多数、尾張海部郡・伊勢桑名郡では陥没・液状化などの被害大。余震が翌々年まで続いた。
1604年(慶長9)	12月16日	地震と津波	房総沖と南海道沖で同時に地震発生。犬吠埼から九州の太平洋岸に津波。伊勢では地震後潮の引いた浜に出た漁民が波に吞まれる。
1614年(慶長19)	10月25日	地震と津波	伊勢では津波による流死者多数。三河では田原城櫓が損壊。
1650年(慶安3)	9月2日	風水害	東海以西で暴風雨。木曾三川が出水。佐屋川堤防決壊で西尾地方を中心に尾張で20万石の被害。
1662年(寛文2)	5月1日	地震と津波	近畿・東海で地震。死者1,000人以上、桑名・龜山・犬山などの城が損壊。三河田原では民家崩壊、土地の隆起が見られた。
1681年(天和1)	7~8月	風水害	2ヶ月の間に数度台風が襲来。伊勢・尾張では農産物の収穫が半分以下になる飢饉を招いた。
1686年(貞享3)	8月16日	地震と津波	渥美半島から天竜川河口にかけて激震。三河田原では城の一部・武家屋敷・町家に大きな被害。
1703年(元禄16)	11月23日	地震と津波	関東で起こった地震のため、渥美半島・知多半島に津波襲来。漁船・網などが多数流される。
1707年(宝永4)	10月4日	地震と津波	関東以西の広い範囲で被害。沿岸部では津波による流死者や流失物多数。海岸新田は破堤により水没。伊勢山田・津・四日市、尾張宮、三河吉田などでは町家が多数倒壊。
1708年(宝永5)	1月22日	地震と津波	伊勢で津波、新田が冠水する。宮川の堤防決壊。宝永4年以後4年間しばしば地震が発生。
1714年(正徳4)	7月8日	風水害	高潮により輪中や沿岸部の新田が水没。美濃の諸河川の増水で熱田には材木70万本が流着。
1722年(享保7)	8月14日	風水害	伊勢・尾張・三河の沿岸部では高潮により田畑の浸水・堤防の決壊など被害甚大。熱田付近では人家がごとごとく流失して死者4,500人。
1767年(明和4)	7月	風水害	庄内川・矢田川・蟹江川などが氾濫し、名古屋でも一時船で往来するほどとなる。三河では猿投山の土砂が矢作川に流れ込み、濁流が人・家を押流した。
1779年(安永8)	8月22~25日	風水害	3日間の大雨で、尾張では庄内川・天白川が氾濫、約3分の2の地域で被害。三河では矢作川が増水して周辺に浸水、水深は6mにも達した。
1783年(天明3)		風水害	秋長雨で庄内川が大野木で決壊し洪水。尾張・三河の広い範囲でも被害があり農作物にも影響。
1791年(寛政3)	8月20日	風水害	高潮で廻船が堤を越えて陸に乗り上げ、6,000軒近い家屋が流失、死者も多数。風も強く東海道筋では倒木が多く一部通行不能となる。

出典) 三重県 HP「伊勢湾データコーナー」

表 11.1.1(2) 伊勢湾・三河湾周辺における主要な風水害、地震及び津波

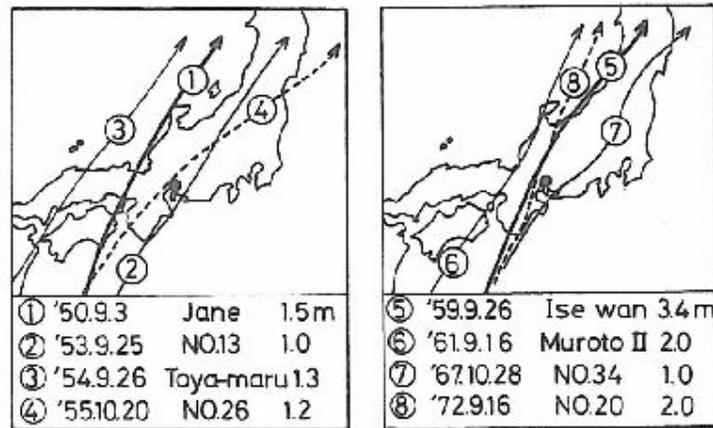
年次	月日	災害	内容
680年(天武9)	8月	風水害	伊勢で大風雨。倒木・家屋破壊の被害。
684年(天武13)		地震と津波	全国的な大地震が起き、畿内近国で人・家畜の被害が10万に及ぶ。伊勢では3箇所が陥没した。
715年(靈龜1)	5月26日	地震と津波	震源地は三河・遠江の国境付近、三河では正倉47棟倒壊、民家が陥没。
775年(宝龜6)	8月22日	風水害	尾張・伊勢・美濃に暴風雨、木曾川氾濫。川沿いの地域で死者約300人、牛馬約1,000頭流死。
1040年(長久1)	7月26日	風水害	強い西風と大雨で伊勢神宮外宮宮正殿などが倒壊。宮川氾濫で市中は海と化し一時交通途絶。
1096年(永長1)	11月24日	地震と津波	畿内・東海道・南海道で大地震。伊勢安濃津をはじめ、東海道沿岸地方で津波被害。
1275年(建治1)		地震と津波	震源地は紀伊・尾張・伊勢で死者数百人。
1360年(正平15)	10月4・5日	地震と津波	二度にわたる強震。6日には尾鷲から攝津兵庫にかけて津波襲来。人畜の被害甚大。
1400年(応永7)	10月24日	地震と津波	伊勢から遠江にかけて地震、三河の被害が大きかった。
1498年(明応7)	8月25日	地震と津波	志摩から伊豆にかけての東海道で大地震。伊勢・志摩では津波による死者1万人余。当時の「日本三津」の安濃津・大湊が壊滅する。明応年間には地震が多発、明応7年6月の地震で三河豊川の川筋が変わる。
1510年(永正7)	8月27日	地震と津波	尾張・三河・遠江で山崩れ・津波。津波が遠江荒井崎を破り、浜名湖が外海とつながる。
1540年(天文9)	8月11日	風水害	近畿から東北で暴風雨。伊勢では雲出川ほか多くの河川が氾濫、三河では豊川河口の前芝などで高潮の被害。
1570年(元龜1)	8月21日	風水害	暴風雨により尾張知多郡・三河・遠江で家屋・農作物に被害。
1585年(天正13)	11月29日	地震と津波	震源地は越中白山付近、近畿・北陸・東海地方に被害。桑名・長島・岡崎などの城が損壊。伊勢湾岸では津波で流死者多数、尾張海部郡・伊勢桑名郡では陥没・液状化などの被害大。余震が翌々年まで続いた。
1604年(慶長9)	12月16日	地震と津波	房総沖と南海道沖で同時に地震発生。犬吠埼から九州の太平洋岸に津波。伊勢では地震後潮の引いた浜に出た漁民が波に呑まれる。
1614年(慶長19)	10月25日	地震と津波	伊勢では津波による流死者多数。三河では田原城櫓が損壊。
1650年(慶安3)	9月2日	風水害	東海以西で暴風雨。木曾三川が出水。佐屋川堤防決壊で西尾地方を中心に尾張で20万石の被害。
1662年(寛文2)	5月1日	地震と津波	近畿・東海で地震。死者1,000人以上、桑名・龜山・犬山などの城が損壊。三河田原では民家崩壊、土地の隆起が見られた。
1681年(天和1)	7～8月	風水害	2ヶ月の間に数度台風が襲来。伊勢・尾張では農産物の収穫が半分以下になる飢饉を招いた。
1686年(貞享3)	8月16日	地震と津波	渥美半島から天竜川河口にかけて激震。三河田原では城の一部・武家屋敷・町家に大きな被害。
1703年(元禄16)	11月23日	地震と津波	関東で起こった地震のため、渥美半島・知多半島に津波襲来。漁船・網などが多数流される。
1707年(宝永4)	10月4日	地震と津波	関東以西の広い範囲で被害。沿岸部では津波による流死者や流失物多数。海岸新田は破堤により水没。伊勢山田・津・四日市、尾張宮、三河吉田などでは町家が多く倒壊。
1708年(宝永5)	1月22日	地震と津波	伊勢で津波、新田が冠水する。宮川の堤防決壊。宝永4年以後4年間しばしば地震が発生。
1714年(正徳4)	7月8日	風水害	高潮により輪中や沿岸部の新田が水没。美濃の諸河川の増水で熱田には材木70万本が流着。
1722年(享保7)	8月14日	風水害	伊勢・尾張・三河の沿岸部では高潮により田畑の浸水・堤防の決壊など被害甚大。熱田付近では人家がことごとく流失して死者4,500人。
1767年(明和4)	7月	風水害	庄内川・矢田川・蟹江川などが氾濫し、名古屋でも一時船で往来するほどとなる。三河では猿投山の土砂が矢作川に流れ込み、濁流が人・家を押流した。
1779年(安永8)	8月22～25日	風水害	3日間の大雨で、尾張では庄内川・天白川が氾濫、約3分の2の地域で被害。三河では矢作川が増水して周辺に浸水、水深は6mにも達した。
1783年(天明3)		風水害	秋長雨で庄内川が大野木で決壊し洪水。尾張・三河の広い範囲でも被害があり農作物にも影響。
1791年(寛政3)	8月20日	風水害	高潮で廻船が堤を越えて陸に乗り上げ、6,000軒近い家屋が流失、死者も多数。風も強く東海道筋では倒木が多く一部通行不能となる。

出典) 三重県 HP「伊勢湾データコーナー」

## 11.2 台風及び高潮

伊勢湾及び三河湾周辺を通過した主要な台風の経路図を図 11.2.1 に示す。1950 年から 1972 年にかけて、名古屋において 1m 以上の潮位偏差をもつ高潮が 8 回確認されており、それらは台風に由来する高潮である。8 回の高潮のうち 3 回は 2m 以上の潮位偏差があり、最大は伊勢湾台風時の 3.45m である（図 11.2.1(1)）。伊勢湾台風は超大型台風で、紀伊半島の主軸に沿って北東に進行した。図 11.2.1 に示すように、大きな高潮は、多くの場合台風中心が伊勢湾及び三河湾の西側を北上した際に生じている。これは、台風による強風がまともに湾奥に吹きつけるため、吹き寄せ効果が顕著になり、これに気圧低下による吸い上げ効果が加わって高潮が発達するためである。

また、近年では、2009 年 9 月 18 日の台風 18 号に伴う高潮が記憶に新しい。台風 18 号に伴う高潮は、伊勢湾及び三河湾の各地で観測され、三河港では最大 2.6m の高潮偏差が発生した（図 11.2.3、図 11.2.4）。この高潮の影響により、三河港神野地区では、コンテナの移動・散乱、事業所の浸水等の被害が発生した。



出典)「日本全国沿岸海洋誌」(日本海洋学会、1985年)

図 11.2.1 伊勢湾・三河湾周辺における主要台風の通過経路(1950~1972年)



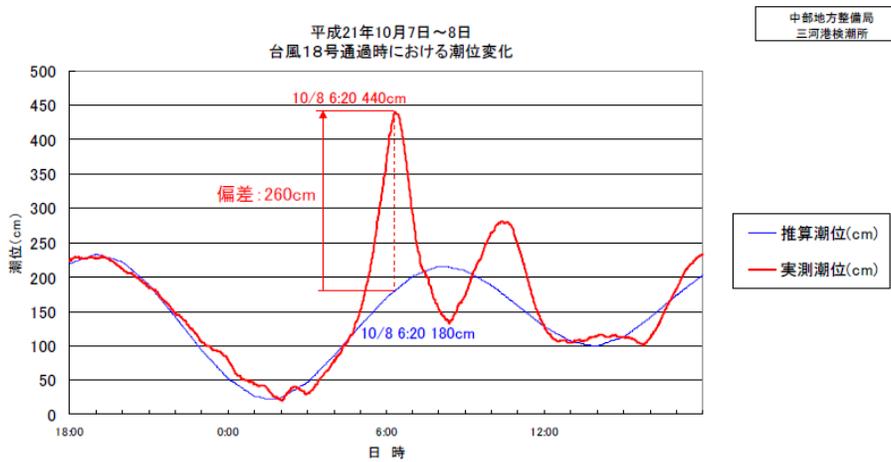
出典)「平成 21 年台風第 18 号による三河湾における高潮(10月8日)報告」(名古屋地方気象台、神戸海洋気象台、2009年)

図 11.2.2 台風 18 号の通過経路(2009年)



備考) 最高潮位の値は速報値。愛知県の値は 10 分値を使用。  
 出典) 「平成 21 年台風第 18 号による三河湾における高潮 (10 月 8 日) 報告」(名古屋地方気象台、神戸海洋気象台、2009 年)

図 11.2.3 台風 18 号通過時における各地の潮位記録の状況



出典) 「台風 18 号通過時における潮位変化」(国土交通省中部地方整備局三河港湾事務所 HP)

図 11.2.4 台風 18 号通過時における三河港の潮位変化

### 11.3 洪水

豊川及び矢作川における主要な洪水は、台風の接近・通過に伴う降雨及び前線によるものがほとんどであり、破堤による氾濫及び浸水等により、人家や農作物等に多くの被害がもたらされた。

表 11.3.1 豊川における主要な洪水の概要

発生年月日	原因	雨量	石田地点流量	被害等
明治37年7月	台風	253mm/日	約6,000m <sup>3</sup> /sec	死者・行方不明29人、負傷者10人、全壊流失218棟、半壊329棟、床上浸水4,514棟、床下浸水3,144棟
昭和34年9月	台風15号 (伊勢湾台風)	191mm/日	約3,200m <sup>3</sup> /sec	死者11人、負傷者255人、全壊流失904棟、半壊2,550棟、床上浸水241棟、床下浸水801棟
昭和40年9月	台風24号	172mm/日	約3,000m <sup>3</sup> /sec	負傷者5人、全壊流失1棟、半壊2棟、床上浸水179棟、床下浸水3,121棟
昭和43年8月	台風10号	185mm/日	約3,400m <sup>3</sup> /sec	死者6人、負傷者10人、全壊流失28棟、半壊21棟、床上浸水247棟、床下浸水1,602棟
昭和44年8月	台風7号	273mm/日	約4,600m <sup>3</sup> /sec	全壊流失7棟、半壊・床上浸水919棟、床下浸水838棟
昭和49年7月	台風8号	286mm/日	約3,800m <sup>3</sup> /sec	死者1人、負傷者8人、全壊流失8棟、半壊41棟、床上浸水1,073棟、床下浸水6,705棟
昭和54年10月	台風20号	178mm/日	約4,400m <sup>3</sup> /sec	全壊流失4棟、半壊4棟、床上浸水34棟、床下浸水156棟
昭和57年8月	台風9号	200mm/日	約2,900m <sup>3</sup> /sec	負傷者5人、半壊1棟、床上浸水118棟、床下浸水1158棟
平成3年9月	台風18号	154mm/日	約2,700m <sup>3</sup> /sec	床上浸水1棟、床下浸水17棟
平成6年9月	台風26号	180mm/日	約3,000m <sup>3</sup> /sec	負傷者19人、全壊流失6棟、半壊84棟、床下浸水1棟

注1) 石田地点流量は実測最大流量(毎正時)を示す

注2) 雨量は石田上流でのティーン分割による流域平均日雨量を示す

注3) 被害等は「愛知県災害誌」、「災害の記録」(愛知県)による豊川沿川市郡町村単位の合計値  
ただし、昭和44年8月洪水は「水害統計」による水系全体の数値

注4) 被害等は集計上、支川被害、内水被害等を含む

出典)「豊川水系河川整備計画」(国土交通省河川局、2006年)

表 11.3.2 矢作川における主要な洪水の概要

発生年月	原因	流域平均 2日雨量 [岩津上流域] (mm)	実績流量(岩津) ( )書き: ダム・氾濫戻し 流量 (m <sup>3</sup> /s)	被害の状況 ※
昭和7年7月	低気圧、前線	225	—	被災家屋：2,252戸(愛知県)
昭和34年9月	伊勢湾台風	200	約3,600	被災家屋：23,444戸(愛知県) 水害区域面積：994ha(愛知県)
昭和36年6月	台風と前線	294	約3,300	被災家屋：1,232棟(愛知県) 288棟(岐阜県) 水害区域面積：5,659ha(愛知県) 50ha(岐阜県)
昭和43年8月	台風10号	142	約2,900	被災家屋：222棟(愛知県) 水害区域面積：4,385.8ha(愛知県)
昭和44年8月	台風7号	211	約3,100	被災家屋：628棟(愛知県) 水害区域面積：2,738.1ha(愛知県)
昭和46年8月	秋雨前線及び 台風23,25,26号	208	約1,600	被災家屋：16,723棟(愛知県) 水害区域面積：9,119.7ha(愛知県)
昭和47年7月	梅雨前線及び 台風6,7,9号	167	約2,600	被災家屋：19,510棟(愛知県) 1,218棟(岐阜県) 水害区域面積：2,687.9ha(愛知県) 316.4ha(岐阜県)
平成12年9月	東海豪雨 (秋雨前線及び 台風14号)	383	約4,300 (約6,200)	被災家屋：2,561棟(愛知県) 83棟(岐阜県) 157棟(長野県) 水害区域面積：1,772.6ha(愛知県) 10.1ha(岐阜県) 15.2ha(長野県)

出典) ※ (被害の状況)：愛知県災害誌(昭和34年以前)  
水害統計(昭和36年以降)

( )書き：ダム・氾濫戻し流量は、矢作ダム(昭和46年完成)  
調節量を戻した流量

出典)「矢作川水系河川整備基本方針 基本高水等に関する資料」(国土交通省河川局、2006年)

## 11.4 その他

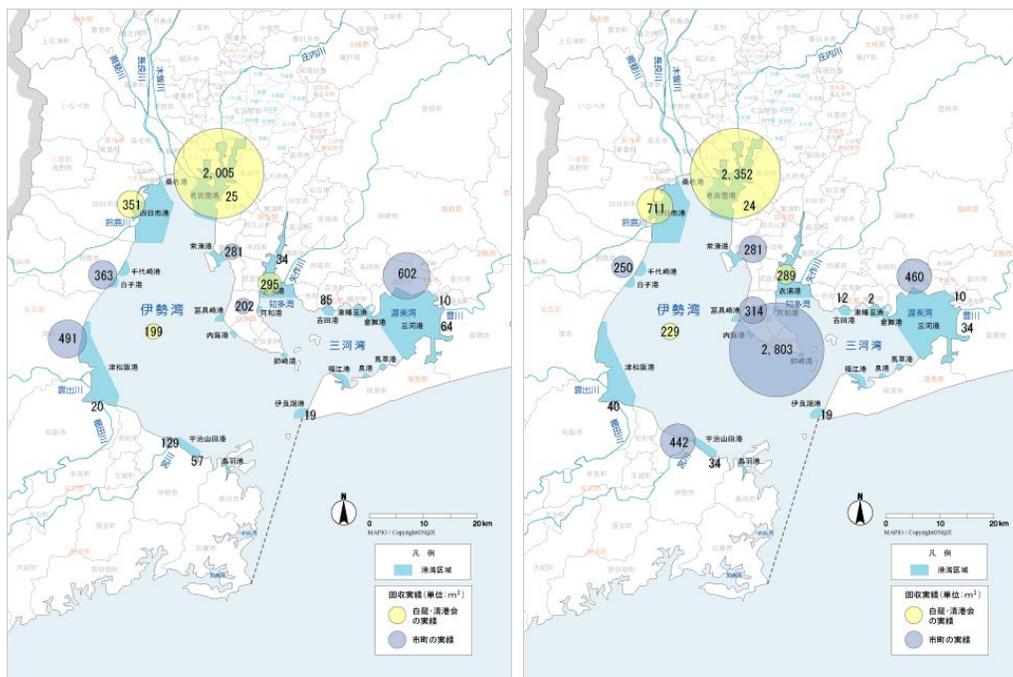
### (1) 海面浮遊ごみ・海岸漂着ごみ

三河湾では、2000年から2004年までの5年間、平均600m<sup>3</sup>程度の海面浮遊ごみ及び海岸漂着ごみを回収している。その回収量は蒲郡市の海岸部や衣浦港で多くなっている。

表 11.4.1 三河湾における海面浮遊及び海岸漂着ごみ回収量

地区等	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	全平均	
	(m <sup>3</sup> )						
三河湾	衣浦清港会	194	116	185	295	289	216
	碧南市三河湾海岸	-	29	9	34	-	24
	吉良町三河湾海岸	-	5	8	85	12	28
	幡豆町	5	4	3	2	2	3
	蒲郡市海岸	436	15	15	602	460	306
	御津町三河湾海岸	10	10	35	10	10	15
	豊橋市三河湾海岸	59	64	39	64	34	52
合計	704	243	294	1,092	807	628	

資料) 伊勢湾環境データベースより作成



2003年

2004年

出典) 伊勢湾環境データベース

図 11.4.1 伊勢湾・三河湾における浮遊漂着ごみ

## 12. 三河湾流域における施策の実施状況

### 12.1 三河湾流域における施策の実施状況

三河湾流域圏の環境情報総合サイト（Mikawa データベース）では、三河湾流域における施策の実施状況について以下のように整理している。

#### ● 森林の再生

実施機関	施策名	実施主体				内容
		産	学	官	民	
中部森林管理局 名古屋事務所	国有林の保全整備					中部森林管理局名古屋事務所
	ふれあいの森制度					
愛知県農林水産部 農林政策課 企画グループ	造林事業（補助事業）					愛知県農林水産部農林基盤担当 局森林保全課の事業内容
	治山事業					愛知県の治山事業
	三河材の利用促進					三河材の利用促進
長野県環境部 水大気環境課	奥地保安林保全緊急対策事業					奥地保安林保全緊急対策事業
	保安林保育事業					保安林保育事業
	保安林改良事業					保安林改良事業
	公的森林整備事業					補助の対象となる作業
	特殊林県行造林					県営林の歴史

#### ● 農畜産業の転換

実施機関	施策名	実施主体				内容	
		産	学	官	民		
愛知県農林水産部 農林政策課 企画グループ	農村振興総合整備事業					愛知県農林水産部農林政策課	
	地域用水環境整備事業						
	農地・水・環境保全向上対策事業						
	環境保全型農業推進事業	(農家)					環境と安全に配慮した農業推進 フォーラムを開催
	環家畜排せつ物利用促進	(農家)					愛知県家畜排せつ物利用促進計 画
	家畜排せつ物適正処理指導	(農家)					愛知県家畜排せつ物不適正管理 に係る指導等に関する要領
	家畜排せつ物処理高度化支援	(農家)					愛知県家畜排せつ物処理利用計 画の概要
	畜産バイオマスの利活用	(農家)					「畜産バイオマス利活用モデルシ ステム検討調査」の委託先を募集

#### ● 排水の適正処理

実施機関	施策名	実施主体				内容
		産	学	官	民	
愛知県環境部 水地盤環境課	法令による規制指導					環境部水地盤環境課の事業内容
	水質総量削減計画の削減					
	生活排水対策					
愛知県農林水産部 農林政策課 企画グループ	農業集落排水事業					愛知県農林水産部農林政策課
愛知県建設部 下水道課	下水道の整備					あいちの下水道
	合流式下水道の改善					高度処理の重要性
	高度処理施設の導入					

#### ● モニタリング

実施機関	施策名	実施主体				内容
		産	学	官	民	
国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所調査課	第5回身近な水環境の全国一斉調査					身近な水環境の一斉調査
	豊川、矢作川における水生生物調査					水生生物調査結果
愛知県環境部 水地盤環境課	河川等公共水域水質監視					きれいな水の対策
	水生生物調査					平成20年度水生生物調査の結果
	流域モニタリング一斉調査					流域モニタリング一斉調査の実施
	油ヶ淵流域水環境モニタリング					油ヶ淵流域水環境モニタリング
長野県環境部 水大気環境課	水質常時監視事業					長野県環境部水大気環境課

● ダム対策

実施機関	施策名	実施主体				内容
		産	学	官	民	
国土交通省 矢作ダム管理所	矢作ダム堆砂対策事業					貯水池の堆砂対策
	矢作ダム水質対策					環境対策

● 自然再生・環境改善

実施機関	施策名	実施主体				内容
		産	学	官	民	
国土交通省 中部地方整備局 三河港湾事務所	海域環境創造事業					海域環境創造事業
国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所調査課	豊川下流部環境整備事業 (自然再生事業)					豊橋河川事務所
愛知県農林水産部 農林政策課 企画グループ	干潟・浅場造成事業					矢作ダムの堆積砂を使用した干潟・浅場造成事業
愛知県建設部 河川課	統合河川環境整備事業 (清流ルネッサンス )					清流ルネッサンスII
	海域浄化対策事業					矢作ダム管理所 愛知県建設部河川課
愛知県建設部 港湾課	海域環境創造事業等					愛知県建設部港湾課の事業内容

● 親水空間整備

実施機関	施策名	実施主体				内容
		産	学	官	民	
愛知県建設部 港湾課	ボートパーク					愛知県建設部港湾課
	港湾環境整備事業					愛知県建設部港湾課の事業内容

● 多様な主体の連携

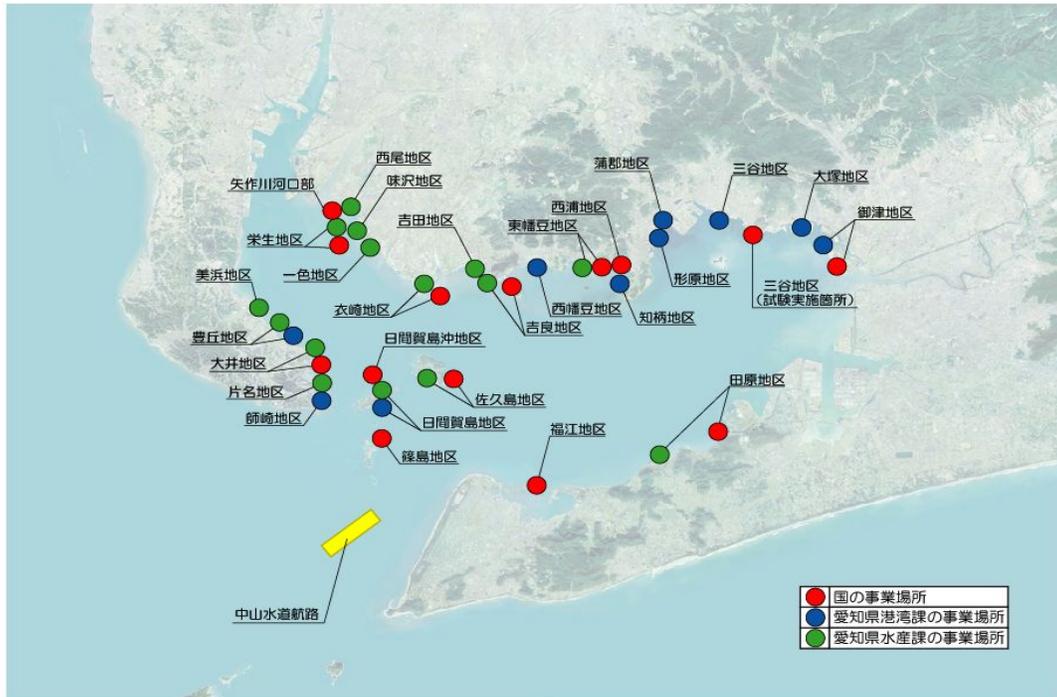
実施機関	施策名	実施主体				内容
		産	学	官	民	
愛知県農林水産部 農林政策課 企画グループ	県有林野地内における 多様な主体による森林づくり					愛知県農林水産部農林政策課
三河湾浄化推進協議会 (事務局・豊橋市環境部 環境保全課)	三河湾浄化推進協議会との連携強化					三河湾浄化推進協議会

出典) Mikawa データベース (三河湾流域圏の環境情報総合サイト)

## 12.2 干潟・浅場の再生

三河湾では、1999年度から2004年度にかけて、中山水道航路の浚渫により発生した良質な砂を利用し、約620haの干潟・浅場造成、覆砂を実施している。

シーブルー事業の実施地区を図12.2.1に示す。



出典)「三河湾データブック2007」(国土交通省中部地方整備局三河港湾事務所、2007年)

図12.2.1 シーブルー事業実施地区

### 12.3 深掘の埋め戻し

三河湾奥部の御津地区、大塚地区には、かつて、三河港における公共ふ頭、大規模な工業用地等の埋立てのために海底土砂を採取した跡が窪地となって存在していた。これらの窪地は、漁業協同組合からの要望を受け、平成 15 年から御津地区、平成 17 年から大塚地区の修復が実施された。御津地区の修復は平成 16 年度末までに大部分の修復が完了している。修復用の土砂は、三河港の整備で発生する浚渫土が活用され、その表層部を良質な土砂で覆っている。



出典) 国土交通省中部地方整備局三河港湾事務所 HP

図 12.3.1 三河湾奥部の深掘埋め戻し位置及び状況